

Topic

さあ、
どう
攻める

攻

S



火災の現況と近年の傾向は



52 ページ

住宅火災の現況は



60 ページ

Topics



煙火に

立ち向かえ!

延焼を阻止!



消防活動体制は



134 ページ

Topics



猛火に挑む

消防隊

住宅防火対策は



180 ページ

住宅
延焼中！



Topics



緊急消防援助隊

Tropics

緊急消防援助隊は



155 ページ



熱海土砂災害



山と空



航空消防は



143 ページ

部隊の連携

救助活動の現況は



66 ページ



水

と

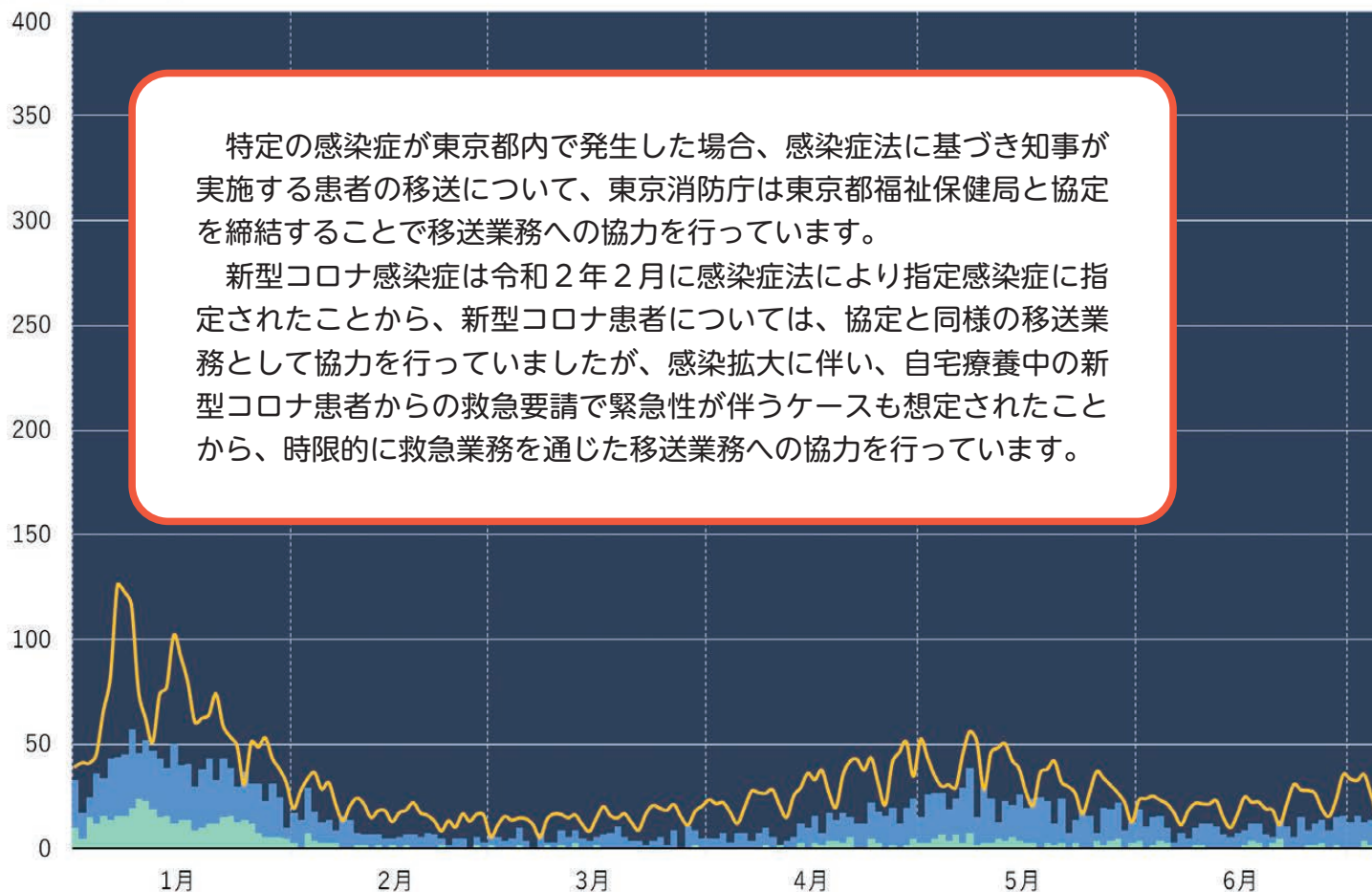
陸

Topics

新型コロナウイルス感染症

● 新型コロナウイルス救急出場件数の推移（令和3年）

【搬送・不搬送／日】



特定の感染症が東京都内で発生した場合、感染症法に基づき知事が実施する患者の移送について、東京消防庁は東京都福祉保健局と協定を締結することで移送業務への協力を行っています。

新型コロナ感染症は令和2年2月に感染症法により指定感染症に指定されたことから、新型コロナ患者については、協定と同様の移送業務として協力を行っていましたが、感染拡大に伴い、自宅療養中の新型コロナ患者からの救急要請で緊急性が伴うケースも想定されたことから、時限的に救急業務を通じた移送業務への協力を行っています。

● 救急隊の感染防止対策

強化予防策

- ・ 新型コロナウイルス感染症の患者であることが**判明している**救急活動
- ・ 新型コロナウイルス感染症が**疑われる**救急活動

眼の防護具 (ゴーグル等)

感染防止衣 (青色不織布上・下)

N95マスク

感染防止衣 (ナイロン製上・下)

ディスポーザブル手袋

準・強化予防策

- ・ 新型コロナウイルス感染症が疑われない救急活動

眼の防護具 (シールドを含むゴーグル等)

サージカルマスク

感染防止衣 (青色不織布上・下)

感染防止衣 (ナイロン製上・下)

ディスポーザブル手袋

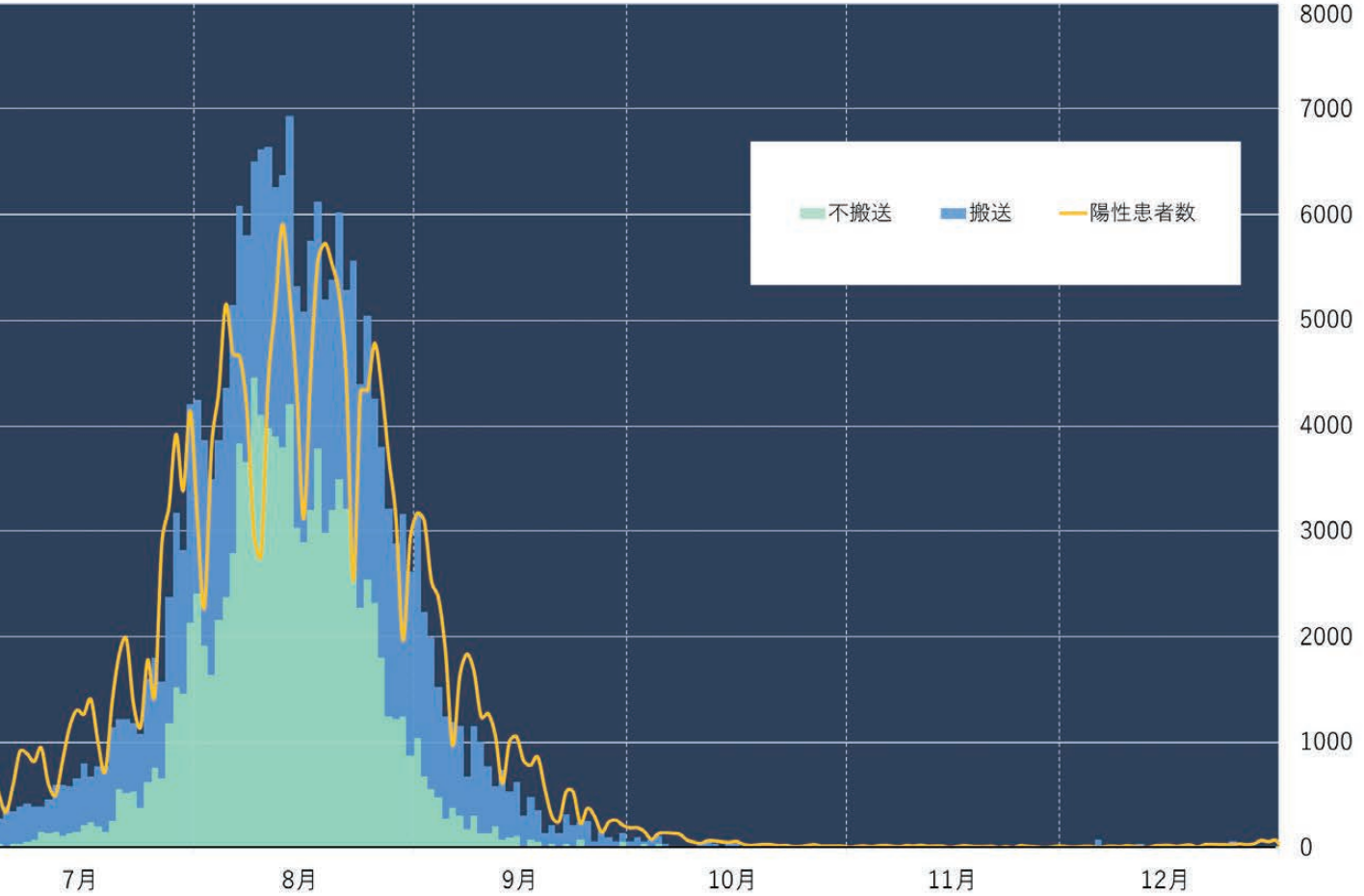
陽性者への対応

救急活動の現況は



70 ページ

【陽性者数 / 日】

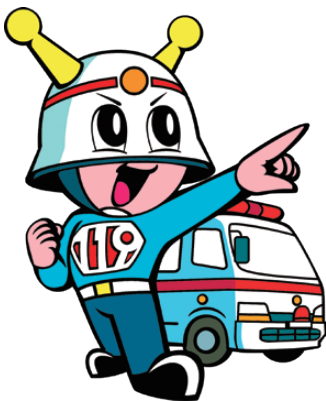


● 救急車内の感染防止対策



救急車内隔壁設定状況 ▲

▼感染防止フード設定状況



消防少年団は コロナ禍でも 元気に活動！

未来の地域の



消防少年団については



192 ページ

opics



防災リーダーを



育てる





地域の防災



力を合わせて





TOPICS



防災行政については

168 ページ

みんなを守る



危険物タンク 埋設に伴う検査



災害時に 備える



危険物行政の現況は



102 ページ

北多摩西部消防署

Topi



新庁舎完成

北多摩西部消防署 武蔵村山出張所



東京消防庁管轄区域は



118 ~ 119 ページ

動力ポンプ付 10t水槽車

消防力の充実強化



放水銃等操作盤



放水銃

更新車両

震災時や高速道路火災など水利の少ない災害現場に消火用水を搬送する車両で、自身も動力ポンプを装備し、毎分1,000 Lの放水が可能です。

放水銃



救助車 (Ⅱ型)



車両左側



車両右側

Topics

更新車両

交通事故等の災害現場における救助活動を考慮し、ウインチ装置、発電装置、昇降式照明装置等を装備した救助車です。



ウインチ装置

救助車 (Ⅲ型)



更新車両

交通事故等の災害現場における救助活動や緊急消防援助隊としての活動も考慮し、四輪駆動方式のシャシを採用している他、車両前後ウインチ装置、クレーン装置、発電装置、昇降式照明装置等を装備した救助車です。



クレーン装置

昇降式照明装置

後引きウインチ装置

遠距離大量送水装備 (ホース延長車・送水車)



水中ポンプ投入の様子



送水車



テント装置
(オーニング)



操作室内

更新車両

NBC災害に対応するため、様々な測定・分析装置や温水機能付き除染テントを積載しており、車内で陽圧式防護衣の着装が容易にできるよう、室内空間が広がっています。

特殊災害対策車

更新車両

水中ポンプを積載した送水車と、呼称 150 の大口径ホースを延長・回収することができるホース延長車のセットで、震災発生時等における大規模な延焼火災において、遠方に位置する海、河川等の無限水利から災害現場の直近まで大量に消火用水を送水し、消防隊の効果的な災害活動を支援することを目的としています。また、水災発生時には、水没箇所からの大量の排水も可能な車両です。



ホース延長車



2 km以上のホースを
延長可能

Topics



消防車両の配置状況は



124 ~ 125 ページ



わが街を わが手で守る



消防団の概要については



245 ページ

TOPICS

特集
5
消防団



消防団



Topic

地域と共に歩む

消防団



本来の仕事や
学業・家事などをしながら
消防団の活動をしています。



S



消防団員募集



入団資格

18歳以上の健康な方

消防団の区域に居住・勤務・通学している方



<https://tokyo23city-syobodan.jp/>

東京消防団



詳しくは特別区消防団HPをご覧ください。

☎ 0120-119-588

市町村の方は、各市町村の窓口までお問い合わせください。

消防団の活動については



254 ページ



東京消防庁
安全推進部創設式



安全推進部の 創設

新たな安全推進体制は



126 ページ



重大事故の

根絶に向けて



Topics

特別救助隊



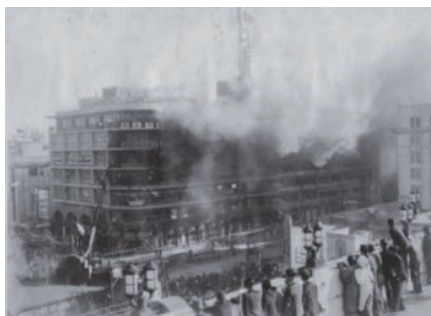
1971 ▶ 2021

50周年

1932

▶日本橋白木屋百貨店火災

昭和7年12月、14,000m²が焼損、死者14人、傷者67人が発生したこの火災を契機に、特別救助隊の前身となる「専任救助隊」が編成されることとなる。



1933

▶先行員制度と救助自動車の配置

昭和8年4月、「先行員」の制度と任務が明文化され、同年6月には警視庁管下最初の救助自動車（フォード・トラック改造車）が神田消防署に寄贈された。



1935

▶専任救助隊制度

旧東京市内の各方面1署に配置とし、神田、芝、麴町、本郷、下谷（上野）、深川の6署に専任救助隊を編成した。

▶専任救助隊廃止

第二次世界大戦に伴う消防戦術の転換により廃止された。

1948

▶東京消防本部の発足

▶東京消防本部を東京消防庁と改称

1955

▶専任救助隊の復活

横浜市の養老院「聖母の園」で発生した死者99人を出した火災を契機に、36の消防署に復活させた。

救助活動は



136 ページ

1962

▶三河島駅構内列車衝突事故

国鉄常磐線三河島駅構内で、貨物列車と電車の二重衝突事故が発生し、電車の乗客529人が死傷する大惨事となった。この災害を契機に、専門的かつ高度な技術を有する特別救助隊の設置について検討がはじめられた。

1963

▶救助技術指導者の育成

10月21日から3週間、救助隊に必要な救助行動、救護技能及び教育方法を習得するため、各消防署から選抜した消防司令補10人を陸上自衛隊第一空挺師団の教育隊へ派遣した。

1969

▶永田町特別救助隊暫定運用開始

将来構想として各方面2隊の特別救助隊設置構想が固まり、特殊な装備と技術を備えた特別救助隊の運用開始に向け、麴町消防署永田町出張所に特別救助隊を設置し、暫定的に運用を開始した。



1971

◆永田町特別救助隊正規運用開始

▶特別救助講習の開始

▶特別救助隊員制度の導入

▶救助服の制定

▶特別救助隊の愛称等の決定

職員及び都民から募集し、愛称「東京レスキュー」、通称「オレンジ部隊」、腕章・ボディーマーク「セントバーナード犬」、ボディーライン「つばめライン」と決定された。



1973

▶はしご特別救助隊の運用開始

▶水難救助隊の運用開始



1974

TOKYO RESCUE

1986

▶ 国際消防救助隊初の 合同訓練

皇太子殿下ご臨席のもと51の消防本部、1,204名（当庁465名）の隊員が参加して訓練を実施した。



▶ 救助隊の編成、装備及び配置の基準を定める 省令が公布

この省令により、救助活動に関する高度な専門教育を受けた隊員、救助活動に必要な資機材及び救助工作車等によって構成される救助隊の基準が定められた。

1987

▶ 山岳救助隊の運用開始

▶ 国際緊急援助隊の派遣に関する法律の制定・公布

海外において消防機関等が活動する法的根拠が明確化された。

1996

▶ 第二及び第八消防方面本部 消防救助機動部隊運用開始

1995（H7）年に発生した阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ、震災時や大規模な特異災害に対応するため、消防救助機動部隊（通称：ハイパーレスキュー）を運用開始した。



2002

▶ 第三消防方面本部消防救助機動部隊運用開始

▶ 新潟県中越地震災害

M6.8、震度7の地震により死者68人、傷者4,805人、全半壊建物16,985棟（総務省消防庁：確定報）の被害が発生したこの災害において、当庁の消防救助機動部隊が他県の救助隊との協力体制のもと、土砂の崩落現場の埋没した車両から2歳の男児を地震発生以来4日ぶりに生存救出した。



2004

2007

▶第六消防方面本部消防救助機動部隊運用開始

▶東日本大震災

M9.0を観測した巨大地震と、その後に発生した巨大な津波により、死者19,759人、行方不明者2,553人（総務省消防庁：令和4年3月1日時点）の被害が発生した。この災害において、当庁からは総務省消防庁長官から東京都知事への指示により、宮城県、千葉県及び岩手県へ緊急消防援助隊を派遣するとともに、内閣総理大臣から東京都知事への特別の派遣要請により、福島第一原子力発電所の事故に伴う使用済み核燃料プールの放水・冷却活動を実施した。



2011

2013

▶第九消防方面本部消防救助機動部隊運用開始

▶航空消防救助機動部隊運用開始

ヘリコプターの機動力を活かし、陸上からのアプローチが困難な高層建築物、山岳地域、土砂崩れ等による孤立地域での災害時に迅速な消防活動を展開することを目的に、航空消防救助機動部隊（通称：エアハイパーレスキュー）を運用開始した。



2016

▶即応対処部隊運用開始

近年頻発する自然災害に対して消防体制のさらなる強化を図るため、警防部に初めて常設する直轄部隊として即応対処部隊を運用開始した。



2020

あらゆる災害に
立ち向かう

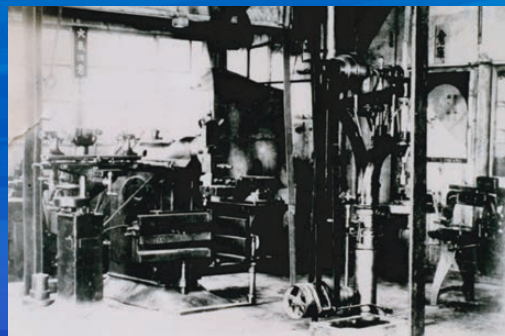


さらに詳しく知りたい方は ▶
「特別救助隊 50 周年記念誌」



装備工場 100周年

from 1921



▲ 1921 (大正 10) 年に設立された
深川消防自動車修繕工場

装備工場については



237 ページ



▲現在の装備工場外観

装備工場工作車の変遷



初代：1984 (S59)



第2代：1995 (H7)



▲第3代 (現行)：2008 (H20)

災害現場、出場、出向途上での交通事故、故障への迅速な対応をはじめ、緊急消防援助隊の後方支援部隊、サミットなどの大規模な消防特別警戒での支援などで活躍しています。

2012 (H24) 年からは2台体制で運用しています。

点検・整備で災害現場を支える



コラム

約2,000台の消防車両を整備することで、 消防活動に貢献する — 自動車整備士 —

私は、自動車メーカーの整備士として8年間勤務した後、東京消防庁に入庁しました。入庁のきっかけは、東日本大震災の時に東京消防庁装備工場の整備士が緊急消防援助隊の後方支援部隊として派遣され、整備活動を通じて支援を行っているのを知ったことでした。その整備活動などを通じて消防隊の活動を支えるということは、これまで培ってきた自動車整備士としての技術が人々の生命、身体及び財産を災害から守ることにつながると思い、大きな魅力を感じました。また、東京消防庁装備工場では約2,000台にも及ぶ消防車両や様々な資機材の整備にあたることができ、一般の自動車整備工場では扱うことができないはしご車などの特殊車両を整

備することにも魅力を感じました。今後はさらに技術を磨きながら万全な状態の消防車両を送り出し、災害現場で活動する消防隊を支えていきたいです。(2013年入庁)



安全・安心な 大会開催に 向けて



大会会場での 消防演習



競技大会前——

Topics



入念な事前確認



全職員を動員した 大規模テロ訓練



—東京2020オリンピック・パラリンピック





万全の

警戒態勢





競技中の 安全を確保



競技大会中②

Topics



開会式で日本国旗を運ぶ救急隊員

